

# 二川相近書跡目錄

福岡市立歴史資料館調査研究報告

3

1975

福岡市立歴史資料館

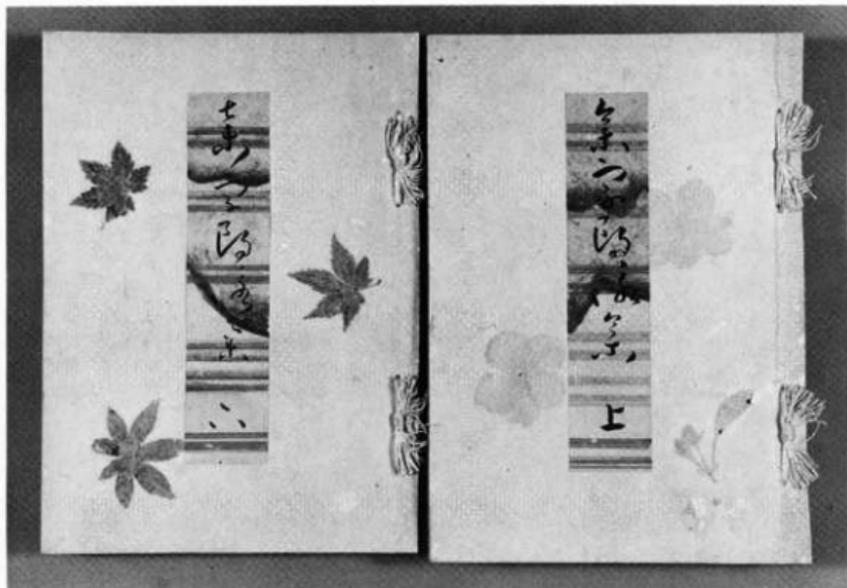


二川相近肖像

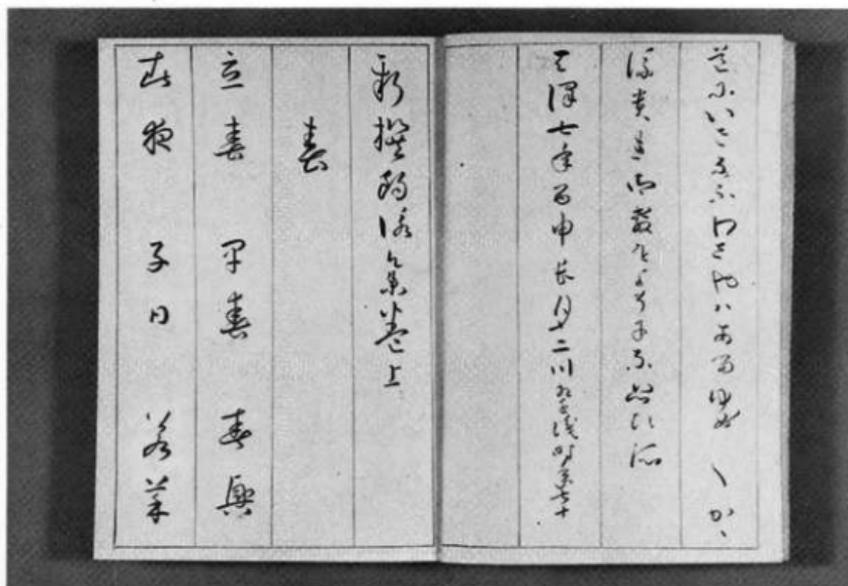
二川力也氏藏







史料番号 191. 192.



史料番号 同上内容









史料番号 200



史料番号 139



## 凡 例

- 一、本歴史資料館所蔵に係る古文書目録の第二輯として、本号には「二川相近書跡目録」を取録した。
- 一、二川相近は、松蔭または菟里と号し、通称を幸之進といった。明和四年（一七六七）十一月、榑木屋町に生れた。二川家は代々黒田藩の御料理人頭格であった。相近は、幼時から亀井南冥に師事して漢学・漢詩を学んだが、後、感ずるところがあり、専心書道の研修に励み、大師流その他の書法を消化して、二川棟を創始し、「執筆法」を著した。また、国学・歌文を田尻梅翁に学び、「松蔭草廬録」その他を著した。なお、音曲に長じ、「古学音譜」のほか、自作の今様歌「しきのはねがき」を遺した。現在、黒田節の名によって流行している筑前今様は、相近が雅楽の越天楽を変曲して、婦女子に歌わせ、その教養に資したものである。
- 一、相近は、二十八歳で家職の御料理人から書字師に抜擢されたが、生来多病の質であったので、中年のころから門戸を閉じて外出せず、庭内に徒然社を祀り、兼好法師に肖かって、隠逸・恬淡もって自適し、天保七年（一八三六）九月二十七日七十歳で没した。墓は福岡市中央区大手門二丁目の円応寺にある。
- 一、本館が、昭和四十八年度に、二川力也氏から譲渡をうけた二一三本の、全般を通じていえることは、書家としての相近の筆跡を見るうえで貴重である点であるが、一部を除いては、ほとんどが音曲・漢学・漢詩・国学・歌文等の混合した、相近の教養を知る資料であって、これらを類別することは厄介であり、事実困難なものが多い。したがって目録では、本館入手当時貼付された番号順にこれを配列し、目録利用者の便宜を考慮して、とくに注目に値すると思われるものについては、いささかの注記を加えた。それらのうち一九一・一九二の『集字朗詠集』上・下二巻は、病没数日前に完成したものであって、その内容・筆跡ともに、相近の精髓を現わしめるに足るものである。このたび二川家の好意によって巻頭を飾ることができた相近の肖像と彼此対照して、その面目を想起してほしい。
- 一、史料の表題は、原題のあるものはこれを採用し、推定で仮に命名したものは、「」を付して区別した。形態・数量については、折本以外は葉数で表した。
- 一、昭和四十八年度史料購入時に岡田千昭が整理にあたり、目録刊行のため原稿作成を筑紫豊が行い、田坂大蔵が編集した。



番号 表 題

摘 要

葉 数

1 「八柱承天……」

楷・行・草諸体の書字がある。

一 七 葉

2 「宮廷人名録」

村上天皇をはじめ、廷臣の官姓名を列記したもの。楷書。

九 葉

3 櫻帖

古歌帖。

一 五 葉

4 源氏今様

西三条道隆院内大臣実隆公作「源氏目錄今様」。

七 葉

5 「烏石耽書及瓦石」

細字草書。

一 五 葉

6 「占春園裏……」

草書。

一 三 葉

7 「雁鳴きて……」

ほか和歌一〇首。

一 〇 葉

8 「華間菟友……」

「秋萩の花開にけり……」等。楷草交り。

一 三 葉

9 「栴香新乘……」

細字。

二 七 葉

10 「雪の日々記」

自叙伝。

一 〇 葉

11 「筑前音楽史」

貝原益軒、竹田定直、高島瀧等について記したもの。

六 葉

12 「玉藻の書字」

相近の二女玉藻の書字か。

四 二 葉

13 「徂徠先生……」

八 葉

14 松陰集帖巻第二

「筑州書員二川相近撰」とある。内容的に重要である。

一部二面折四八面  
二部五折三〇面

15 「詩歌等雜綴」

和歌、漢詩・集字・水雲梅碑・相近詠・平景照碣(刀法のことなど)。

一 六 葉

16 「去路千程」

漢詩集。

二 二 葉

17 松蔭焦唱叙

相近作漢詩その他。

一 四 葉

18 「閑園二月伴華……」

和歌を含む雜綴。

一  
八  
葉

19 南郭(唐詩)

草書。

一  
三  
葉

20 「法の水」

草書。

一  
一  
葉

21 「浅茅原」

「浅茅原つばらつばらに」の相伴の旅人の歌ほか。

九  
九  
葉

22 「詠雨中鹿」

和歌。

九  
六  
葉

23 枕石帖

草書。

一  
六  
葉

24 葉月の落葉

四五首。

一  
〇  
葉

25 (天保四年 六七才)  
「癸巳七月一日に……」

和歌・漢詩集。

一  
二  
葉

26 「楽器音律の記」

楽器の音律について記述したものである。

三  
三  
葉

27 「兵法の書」

「兵法とは武藝をすぶる名なり云々」とある。

四  
三  
葉

28 「音楽の説」

「文政七年(一八二四)長月六日、あらしのをかなるつれづれの神社のかたはらにて、相近書。」音楽の楽しみを説く。

一  
三  
葉

29 音楽論

「これを平上去といふ……」

七  
二  
葉

30 筆弁慶二

兵学。

一  
二  
葉

31 「万葉歌」

平仮名書。

四  
七  
葉

32 「下描の絵」

反故紙に竹・桜などの絵を描いたもの。

一  
一  
葉

33 「県居翁家集」

万葉歌三葉。晋右將軍王羲之云々、嬰風餘録(相近)元日(和歌)・水城樞村詩等。なかに「……たるなり、さて此二翁のたふりは、此二歌にてしらる」として梅翁の和歌一首と南冥の漢詩一首を記したものがあ

一  
七  
葉

(田尻)

(龜井)

- 34 「古歌書写」  
 35 「老荘が海棠を」  
 36 手習歌鈔  
 37 手本  
 38 「カゴ字」  
 39 琵琶雑記  
 40 「いろは歌その他」  
 41 右軍集字  
 42 「惟聖皇之……」  
 43 和漢朗詠集  
 44 「相近・玉篠綴」  
 45 詠草  
 46 「詩歌雑記」  
 47 右軍集字  
 48 歌詞研究

和歌・漢詩・漢文。

和文。

表紙に「六」とある。「手習歌鈔」後拾遺とあつて三〇首の和歌を  
 書写し、なお「後拾遺終」として金葉集の歌一首を細書している。

楷書雑綴。

筆法をていねいにカゴ字で示している。

雑綴。

仮名泱紙表紙つき。

中字・草書。

一部書写。

なかに相近とあつて玉篠の黒印あるものがある。

一九首。奥に「源相近、この興どもすぐれておもしろく、うちき、奉  
 候、那珂のいはきぬし 御もとへ」とある。

万葉一二巻の歌(五丁)、漢詩(四丁)、今様(万葉仮名)(五丁)、  
 唐詩選卷之七(二丁)。

仮名。泱紙表紙つき。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 四 | 一 | 三 | 一 | 八 | 一 | 四 | 一 | 五 | 八 | 二 | 六 | 一 | 一 |
| 〇 | 三 | 五 | 五 | 五 | 〇 | 二 | 五 | 〇 | 〇 | 八 | 〇 | 八 | 八 | 一 |
| 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 業 |

49 「和漢詩文雜集」

50 「玉篋筆跡」

51 「歌文集」

52 「冬郊霜後路……」

53 「絃中真得趣……」

54 「千字文等雜綴」

55 「古歌粗写」

56 「仙人樓上風皇飛……」

57 「新春・七夕試筆」

58-1 「細字筆跡」

58-2 「歌文」

中に、「夏木立茂が中に栖我を蚊遣の末に人は去らむ」の和歌、「已近蘭亭脩禊時……奉謝 相近上」の漢詩、「汝が栖里の華はしもいかなるいろに匂ふらむやよひの空に立掃るかりの行へそゆかしき」の今様、「年のくれに上村兵介ぬしが紅梅のえならぬえだをたをりてもてきたるを、相近、惜めどもことしも今日にくれなるのこそめの梅にこそをしのはむ」の題詞、和歌などがある。

相近の和歌九首、相近の扇面写、同梅花の写、竹の絵、扇面（貧の説）相近、扇面和歌五首相近、相近和歌一〇首、相近和歌四首、相近・大伴旅人「酒をほむる歌」扇面写、その他

書字いろいろ。

文政十一年三月書。「奉櫻井大神広前歌……故大宮司浦氏外遜二川相近上」。「林表墮金鴉……文政十一年三月書相近」。「奉和磐谷先生……相近上」。「和春翁佳什……相近」。今様「水とこがねはひとつものひき、ところをおのがすむすみかにしめてるたりけり」。その他音楽関係のものなど一綴。

雜綴。千字文一葉。喜撰法師一葉。いろは歌一葉。なにはづに……一葉。朱蓮浮緑水……一葉。鶉鳴古郷之……一葉。吹くからに……一葉。蕢荷というも草の名一葉。攪勝一葉。和歌・詩稿一葉。

(二八二五) 乙亥七夕書・戊寅試筆その他。

楷・行・草細字。

(二八二四)

「文政七年長月六日、あらしのおかなるつれづれの神社のかたはらにて相近書」。音楽の樂しみを説く文。詠草二二首。和矢野八首。博多八景の詩。その他。乱丁がある。

二 一 葉

四 九 葉

一 九 葉

一 二 葉

一 八 葉

一 〇 葉

七 葉

九 葉

一 五 葉

八 葉

八 葉

|    |          |
|----|----------|
| 59 | 「詠草・歌論」  |
| 60 | 「やつはしくみ」 |
| 61 | 「習字手本」   |
| 62 | 「庭の卯花」   |
| 63 | 「今様」     |
| 64 | 「雜記」     |
| 65 | 「今様の記」   |
| 66 | 「作刀論」    |
| 67 | 「嬰風歌抄」   |
| 68 | 「筑前音楽史」  |
| 69 | 山里集序     |
| 70 | はる風双紙    |
| 71 | 都九志布梨    |
| 72 | 唐七絶      |

草稿その他。

一―二三今様。「越天楽唱歌」一―一二（但し一二の歌なし）。

「庭の卯花盛ニ相成候間、一会相催可申候。兼題八山家外華にて御座候。」その他万葉歌など書写。

すゝなすゝしろ・まどの梅の・雨よりほかに・あをやぎの・花よりあくる・見わたせば・野辺の秋風・うれしやここに・はるによせし・はるののに。

和歌・書字・手鑑の論・漢詩など雜集。

「今様は今の世にてならふはじめに物するいろはぞはじめなるべき……文政九年（一八二六）霜ふり月相近識」。詠草中に「癸巳（一八三三）元旦筆をこころむるとして……」の歌がある。

刀劍鍛冶の技術にわたることを論じたもの。

表紙に新統古今の歌を書くもの、ふも和歌の道しらぬは……一葉遊芸抄・「学士は必文章を学ぶへし」二葉その他。

貝原益軒・竹田定直・高島瀧……等の名が見える。

卷之第一。

歌友の諸歌、卷末に「へこゝろなくふりくる雨か一とせにふたたび吹かぬ華のさかりにへきその雨にさおひて花ぞ咲きまさる庭のさくらはけふさかりなり」の一紙が貼付されている。

草書。

|   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|
| 一 | 三 | 七 | 七 | 四 | 一 | 一  | 八 | 一 | 一 | 一 |
| 三 | 〇 | 〇 | 〇 | 三 | 六 | 〇〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉首 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 |

|    |               |                                      |    |     |   |
|----|---------------|--------------------------------------|----|-----|---|
| 73 | 「陰雲帯残日……」     | 中字草書。                                | 一  | 三   | 葉 |
| 74 | 雜綴            |                                      | 八  |     | 葉 |
| 75 | 「いつしかと……」     | 和歌、その他雜記。                            | 一  | 五   | 葉 |
| 76 | 「景行維賢烈……」     | 隸書。                                  | 二  | 〇   | 葉 |
| 77 | 「詩歌筆跡」        | 草書中字。相近の歌が数首ある。                      | 一  | 四   | 葉 |
| 78 | 「久方之……」       | 歌一五首。万葉歌か。                           | 一  | 八   | 葉 |
| 79 | 「首以書」         | 行書。                                  | 一  | 八   | 葉 |
| 80 | 「嬰風書堂」        | 「(八二八) 文政十一年戊子之季夏 書 嬰風書堂相近」などとある。    | 一  | 八   | 葉 |
| 81 | 「和池冷魚鳥樂」      | 主として楷書。中に「のおくやま……世尊寺様」という一紙が挿入してある。  | 折本 | 五六折 | 折 |
| 82 | 「順徳院の琵琶のこと……」 | 琵琶の音調等について。                          | 三  |     | 葉 |
| 83 | 「竹の絵」         |                                      | 九  |     | 葉 |
| 84 | 「弘法大師草字心経」    | 弘法大師草字心経一卷 木版刷。妙法蓮華経、観音菩薩普門品第二十五。古写本 | 三  |     | 葉 |
| 85 | 「般若心経」        | 古写経文、中に花押のカゴ書。                       | 一  |     | 葉 |
| 86 | 古写経           | 三行もの。                                | 一  |     | 葉 |
| 87 | 「尊朝法親王」       |                                      | 一  |     | 葉 |
| 88 | 拓本            | 金光明寂勝王経捨身品第廿六。                       | 三  | 三   | 行 |
| 89 | 「長恨歌の心を」      | 相近。「おもひきや雨をおひたる花の枝にながきうらみののこるべしとは」   | 一  |     | 葉 |
| 90 | 拓本刷           | 古歌五首一連。                              | 一  |     | 葉 |

91 拓本刷

古歌一〇首一連。

一 業

92 「諸書写綴」

〔二八三三〕「天保三年壬辰十二月廿七日應 円應大徳尊師之徴 謹書 二川相近」。「黒田二十五騎人名 一川相近書」。「万葉歌書写 文化十一年夏日応 桜井大官司之需書相近」他

一 九 業

93 「要文凡六百五十七部……」

折本 一 二 面

94 「也陰陽処乎……」

折本 一 四 面

95 「仏典関係書」

一 業

96 「真是趣」

一 業

97 「猛虎一声山月……」

一 業

98 「いにしへのうたは……」

一 業

99 「信太郎様あて書簡」

一 業

100 今 様

断片。

一 業

101 音楽記聞

損軒貝原篤信輯。相近注。断片

一 業

102 「……たる秋の月ハ……」

断片。

一 業

103 今 様

断片。

一 業

104 「弓道絵入説明」

断片。

一 業

105 「人声ハ五音ニテ」

音楽論。

一 業

106 和 歌

「つてならできかまほしくもおもふかな我故郷のうぐひすの声 相近 ことみち大人に。」とある。

一 業

107 和 歌

「ふたがはぬしのみ園生の藤の花……」和歌三首。「御笑らひ草に見せまゐらす 相近」とある。

一 業

|         |                                 |   |   |   |   |
|---------|---------------------------------|---|---|---|---|
| 108     | 「和歌集」                           | 金葉・六帖等の歌。   | 一 | 〇 | 葉 |
| 109     | 「独愛清閑夏……」                       |   | 七 |   | 葉 |
| 110     | 「文書記録写」                         | 藩公その他の文書記録の写しを含む。   | 一 | 四 | 葉 |
| 111     | 「竹似貞……」                         |   | 一 | 四 | 葉 |
| 112     | 「境界図」                           | 押領地と郡地の境界図。   | 一 |   | 面 |
| 113     | 「屋敷図」                           | 「明治二二年孟夏念三日 玉鉉堂伯望図考之。」とある。                                  | 一 |   | 面 |
| 114     | 筆跡                              | 頗る豪快な書風である。   | 九 | 六 | 葉 |
| 115     | 「野春林与天花合彩……」                    | 行書。やや大字。横綴。   | 七 | 一 | 葉 |
| 116     | 「筆跡」                            | 王凝之・李邕・王羲等々の書写。中に「乙丑仲春臨相近」とある。大字風。堂々の書風を示す。横綴。乱丁あり雑綴というべきか。 | 九 | 八 | 葉 |
| 117     | 「習字帖」                           | 横綴。大・中・小字。行書が多い。またカゴ字が多い。中に「懲」の字を二枚に書いたものを挿入している。           | 九 | 八 | 葉 |
| 118~121 | 「二川滝三郎詩書」                       | 「昭和戊辰孟秋 白楊居士」。大隈言道翁旧居建碑式紀念展示会の紙札三通。                         | 一 |   | 綴 |
| 122     | 法帖                              | 草書。平仮名交り。漢字には朱で音訓を附している。                                    | 一 | 九 | 葉 |
| 123     | 「君が代」                           | 下書か。破損が甚しい。   | 一 |   | 葉 |
| 124~126 | 聖福寺関係碑文                         |   | 一 |   | 綴 |
| 127     | 「惺窩先生真跡」<br><small>(藤原)</small> | 木版刷。相近訳。「文化庚午暮春、吉留涉書」とある。<br><small>(二八〇)</small>           | 一 |   | 枚 |

128 「後の望東尼」  
「もと返書」

へたがさともふるゆきなからかずかずに人まつかげぞこひしかりける  
いでやとてれのしづこ、ろのふものし侍りしかどおきなきもの  
るてなかなかにきやうなくのこしおきなんもうしろめたくてへか  
しましとおもふ物からうなるこのままひもゆきもけたれぬるかな。  
いとほかなしや。みかへし。もと(野村) 林毛。

129 「もとの和歌」

へさくらばなさくにつけてもあはれとて見るらむ人のまちとほきか  
な。もと。

130 「もとの返歌」

みかへし(野村) 望東。へうゑそえし柳のいとにうめの実もむすびこむら  
むすまぞたのしき。

131 「もとの小簡」

「友古のうしのみもとに 向陵 竹の子のつくだに…… 母より」  
(友古は相近の養子(父鶴原定道・母矢野氏))

132 「言道書簡」

へひめこまつふたいのほどをいかにしてきみ見いでつついふなる  
らむ。老たるものちぎりまるらせしよしことしの御事しげきにい  
かでさることきこえあけつらむ。こころなしとおもひ給ふるものから  
いけるかひある世なりけりな。か、るもの見侍るにつけてもまことに  
うき世もすがたういた、き侍りぬ。かのかたにおくり侍らばいかに  
ありがたうおもひきこえ侍らん。何もかりいでかこそ。あなかしこ。

向岡事

言道

御もと人

133 なには集

三卷之内入選。元、素行、貞貫(望東の夫)石秀等の歌が細書され  
ている。

134 和歌

筆者不明。へあら玉の年のかよひちたどりてや霞に春のたちかへる  
らん。

135 和歌

こなる人のみまかりけるまへつかた時鳥のはつねをききていとうれ  
しくけるさまのわすれられかたさにとしひとめぐりころよふかく  
なくこゑをきき侍りて。もとへさそはれし人はかへらぬたびちより  
よみがへりなくやまほと、ぎす。松軒といふおくりなをものせられ  
たるおくつきにまゐりてへかなしさにありがたなみだうちそへての  
きばの松とあふぎ見る哉。

業

業

業

業

業

業

業

業

|     |          |
|-----|----------|
| 136 | しきのはわかき  |
| 137 | 意見書      |
| 138 | 畫像讚      |
| 139 | 松蔭歌集     |
| 140 | 雪乃日々記    |
| 141 | 御家臣伝     |
| 142 | 五月記      |
| 143 | 松蔭草廬録葉第二 |
| 144 | 弘文館本十七帖  |
| 145 | 真草千字文摹   |
| 146 | 墨道和言     |
| 147 | 「宗尊親王……」 |
| 148 | 唐七言古     |
| 149 | 夕立帖      |
| 150 | 植立帖      |

六六首中、第一九首、第五一首―五九首の計一〇首が脱落している。  
(理由は不明)。

「天明二年乃冬於東武存寄之儀申上候次第之事」二川相直(相近の父)。

表紙に楓の葉一〇枚を散らしにあしらい、題簽には小型短冊を用いている。「漢太中大夫東方先生画……」楷書。

松蔭歌集一と題簽にあるが、二も含まれている。表紙は淡紙。

自叙伝。

草葉。笛、琵琶などのことを記す。「<sup>(二八三二)</sup>天保三年七月廿八日二川相近撰。

解無畏摹。草書。

(二川の印)。かこ字。楷書。

沢雄道人撰。

歌集。

草、楷書。

「夕立帖<sup>天七</sup>」順徳院御製「夕立のなごりばかりの庭済日頃も不聞  
蝦蟇難梨。ほか。

「植立帖<sup>天七</sup>」植立而君がしめゆふ華難礼婆玉等見えてや露も置  
らむ。ほか。

|   |   |   |
|---|---|---|
| 一 | 五 | 葉 |
| 一 | 〇 | 葉 |
| 一 | 三 | 葉 |
| 一 | 六 | 葉 |
| 二 | 六 | 葉 |
| 四 | 一 | 葉 |
| 一 | 四 | 葉 |
| 一 | 八 | 葉 |
| 八 |   | 葉 |
| 二 | 〇 | 葉 |
| 一 | 三 | 葉 |
| 九 | 二 | 葉 |
| 二 | 六 | 葉 |
| 二 | 〇 | 葉 |
| 一 | 四 | 葉 |

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 151 | 入木傳統                     |
| 152 | 松蔭山熊唱譜                   |
| 153 | 承永帖                      |
| 154 | 二川相近略伝                   |
| 155 | 正統歌格類選卷之上                |
| 156 | 書学大概                     |
| 157 | 蒙史卷之一                    |
| 158 | 聽雨録藁第一卷                  |
| 159 | 松蔭先生真蹟今川状                |
| 160 | うぐひすの記                   |
| 161 | 行書千字文 <small>徳義全</small> |
| 162 | 過雁帖                      |
| 163 | 亀子自叙律詩                   |
| 164 | ふでべんけい                   |
| 165 | 音楽論                      |
| 166 | 松蔭熊唱譜                    |
| 167 | 今様                       |

入木道の系譜など。

二川相近記、「音律雜録」稿本含む。

用紙に志波御紙役場印がある。「五八四字」と計算している。表紙内側に「安政三年（一八五〇）丙辰神無月に相違の今様などについて文を見る。なお、綴込みではなく、「歌替天満宮碑文」が挿入してある。

梶原景翼記。草案と浄書と二種合せ綴じている。

（一八六八）  
慶応四年戊辰六月写、玄溟源相受。

烏石山人著。尾張木貞貫題。

九行罫紙半紙型。完結。

楷書万葉仮名書き。郷土関係、知友交際関係のものに見るべきものが多い。なお第二帖は和歌一四首のみで断絶している。一〇行罫紙折本。右下方に「筑藩医官」「鶴原藏籍」の印がある。

表紙にも歌あり。また和歌六首を書し、末尾に「相近識」とある。

装本や、入念。

巻末に「以昌雄藏本摹勒 友古」とある。

武術関係論稿。

断片。

「高野大師真蹟」一葉。「北諸寒風」一葉。「古詩十九首」一葉。「春風双紙」二葉。「小嵐集卷之一」一葉。「雨新詠」一葉。

草稿。

|   |   |   |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| 六 | 八 | 七 | 六 | 一 | 一 | 二 | 五 | 折本  | 二 | 四 | 八 | 五 | 四 | 五 | 一 |
| 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 折本  | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 |
|   |   |   |   | 五 | 〇 | 三 |   | 七〇七 | 七 | 三 |   | 四 | 四 | 七 | 一 |
|   |   |   |   | 葉 | 葉 | 葉 |   | 面折  | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 |

|     |         |
|-----|---------|
| 168 | 嬰風園春秋   |
| 169 | 今様会式    |
| 170 | 今様いろは歌譜 |
| 171 | 山路の雪    |
| 172 | 夢幻物語上   |
| 173 | 新泉村居二十詠 |
| 174 | 「積水」    |
| 175 | 「高圓」    |
| 176 | 「今様浅緑」  |
| 177 | 「雑記綴」   |
| 178 | 「都帖せ」   |
| 179 | 米市書史    |
| 180 | 二王帖     |
| 181 | 「歌学事始」  |
| 182 | 新古今様一   |
| 183 | 吉留杏村書   |
| 184 | 太宗大令    |

へうまおきしざくらかへでにつちかひてまづやのどけき御代の春秋  
 の歌のほか「草書選詩題辞文政十二年（二八二九）四月十八日後学二  
 川相近藏」などを雑記している。

嬰風園藏とある。

今様の譜を、「いろは歌」に施したもの。

雑記帖。

代主人石松君作 相近。和歌・漢詩を対に作り、一五首を収む。

万葉歌の写一六首。

ほか五六首（相近は五八首とす）の今様を収む。内三首を重複して  
 いるので、結局五三首となる。

詩句・今様・千字文・和歌など雑多である。

ほかに紙片二葉を挿む。

雑綴。

和歌を始めたことについての記事の断片がある。友古の書がある。

相近の小角印がある。

草書。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 九 | 一 | 二 | 一 | 一 | 八 | 八 | 二 | 六 | 六 | 五 | 二 |
| 六 | 一 | 七 | 八 | 〇 |   | 四 | 〇 | 九 | 八 |   |   | 〇 | 三 |   |   | 二 |
| 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 | 葉 |



|     |          |
|-----|----------|
| 200 | 熊鳴新譜     |
| 201 | 草書千文     |
| 202 | 初学詩法并序   |
| 203 | 集字千文     |
| 204 | 古楷一      |
| 205 | 古楷二      |
| 206 | 古楷三      |
| 207 | 孫氏真草書譜   |
| 208 | 「歌唱雜記」   |
| 209 | 大唐三藏聖教序  |
| 210 | 「都尉篇中……」 |
| 211 | 詠湊千鳥     |
| 212 | 「五味依然……」 |

小形。表紙に松の木を描き、中央に隸書で題簽。文化十年正月松蔭  
 熊若源相近識」の叙例のほか、老梅架土題の詠小惑の文がある。ま  
 た、契沖・梅翁・成章・千蔭・泉主・友泉公(繼高)・高蹊・長嘯子・  
 春海・直長等の歌を、万葉仮名にて書き、譜付けしたものである。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |      |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------|
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 五 | 五 | 二 | 五 | 一 | 二 | 一 | 折本九折 |
| 二 | 二 | 三 | 七 | 七 | 一 | 七 | 六 | 二 | 三 | 三 | 六 |      |
| 業 | 業 | 業 | 業 | 業 | 折 | 面 | 面 | 面 | 業 | 業 | 業 |      |

この題詠のほか和歌・銘文等断片。  
 雑記。

福岡市立歴史資料館調査研究報告3

二川相近書跡目録

昭和51年1月

編集 福岡市立歴史資料館  
発行 福岡印刷株式会社  
印刷 福岡印刷株式会社

